

勝山市の小中学校の望ましい在り方について

— 17年度中間報告書—

平成18年3月31日

勝山市の小中学校の望ましい在り方検討委員会

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1 「小中学校の望ましい在り方」を考える・・・・・・・・・・	3
学校の適正な規模とは	
2 各小学校の平成17年と平成23年の児童数の推移・・・・・・・・	4
平成17年 年齢別人口	
3 検討委員会の要点報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5～9
4 平成17年度の間接報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
5 検討委員会委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11

は じ め に

本検討委員会は、少子化にともない、児童生徒の著しい減少が見込まれる中、地域に開かれた魅力ある学校づくり並びに小中学校の適正な規模や配置について検討するため平成16年度に設置した。本委員会は、市内各界各層の代表者で構成し、平成17年度は、6月29日に初回の委員会を開催し以来4回の会議を持った。

今年度は、平成16年度の中間報告を受けて、校区の方に子どもの数が大きく減少している現実を説明すること及び住民の方の意見を聞くことを積極的に進めるとともに、学校の適正規模について検討を深めた。

また、特別認定校の視察研修やPTAや幼保の保護者との対話集会をおこなうとともに、PTA対象に「統廃合モデル案」についてのアンケート調査を実施した。これらの結果について慎重に検討を重ね、平成17年度の意見のとりまとめをおこなった。

本検討委員会は、3年間かけて検討し、平成18年度に検討委員会の結論を出すことになっている。検討委員会の結論については、勝山市教育委員会で慎重にその取り扱いを検討する予定です。

17年度の報告

第1回 平成17年6月29日

- ・ 委嘱書交付、委員長、副委員長選出
- ・ 市民対話集会について報告
- ・ 各地区の児童生徒数の実態と推移を説明
- ・ 望ましい学級・学校規模について検討

第2回 平成17年9月27日

- ・ 各地区別対話集会について報告
- ・ 小中学校の望ましい統廃合の在り方について検討
- ・ アンケート調査の内容などについて検討
- ・ 統廃合のモデルパターンについて意見交換

第3回 平成18年2月7日

- ・ 特別認定校視察報告
- ・ 市PTA連合会と市教委の対話集会について報告
- ・ 小中学校の保護者に対する説明会の実施報告
- ・ 幼稚園・保育園の保護者代表と市教委の対話集会報告
- ・ アンケート調査について検討

第4回 平成18年3月16日

- ・ 小中学校保護者対象アンケート調査結果報告
- ・ 中間報告のまとめについて検討

「小中学校の望ましいあり方」を考える 学校の適正な規模とは

繰り返されてきた統廃合 少子高齢化の波が押し寄せ、子どもたちの数は年々減少している。過去を振り返ってみると、当市の小・中学校は、児童・生徒数の減少がある度に、統廃合を繰り返して現在に至っている。

こうした各地区の児童・生徒数の激減の背景には、雇用情勢、ライフスタイルの変化や過疎化など急激な社会の変化があり、このような流れは今も続いている。

新たな統廃合問題 各地区の小学校では、各学年に複数あった学級が一クラスに減ったり、各学年に一クラスしかない学校では、児童数が著しく減少して複式学級を編制せざるを得なくなっている。しかも、その複式学級の児童数も、今後は、二学年併せて数名になることが予想され、効果的な集団教育を行う限界にまで達しようとしており、新たに、学校の統廃合問題を取り上げなければならない状況にある。

しかしながら、これまで当市が行ってきた統廃合にはなかった新たな問題が予想され、克服しなければならない課題も多い。それは、これまでの統廃合とは異なり、各地区に一校ずつあった小学校が地区によってはなくなる可能性があるということである。また、通学区域が広くなり、昨今のような不審者の出没もあり、通学についても十分検討しなければならない。

学校と地域の関わり 学校が地区からなくなることは、地区の存亡に関わる重大な問題であると捉える年輩の方々と、子どもの教育のためには統廃合もやむを得ないと考える若い方々の意見の分かれるところである。

現状では地区毎に小学校が存在しながら、年々各地区から若い人たちが地域を離れる現実がある。将来の学校の規模に不安を感じての転出もあろうが、遠距離通勤や地域での生活に不便さを感じるなど様々な理由での転出もあり、学校の統廃合の問題は地域のありかたの問題とも大きく関連している。

次代を担う子供の立場で こうした状況の中で児童・生徒にとって望ましい学校教育を進めていくには、子どものたちにとって魅力ある学校をつくと共に、“学校はどの程度の児童・生徒数が必要であるか”を十分検討し、この問題に取り組まなければならない。

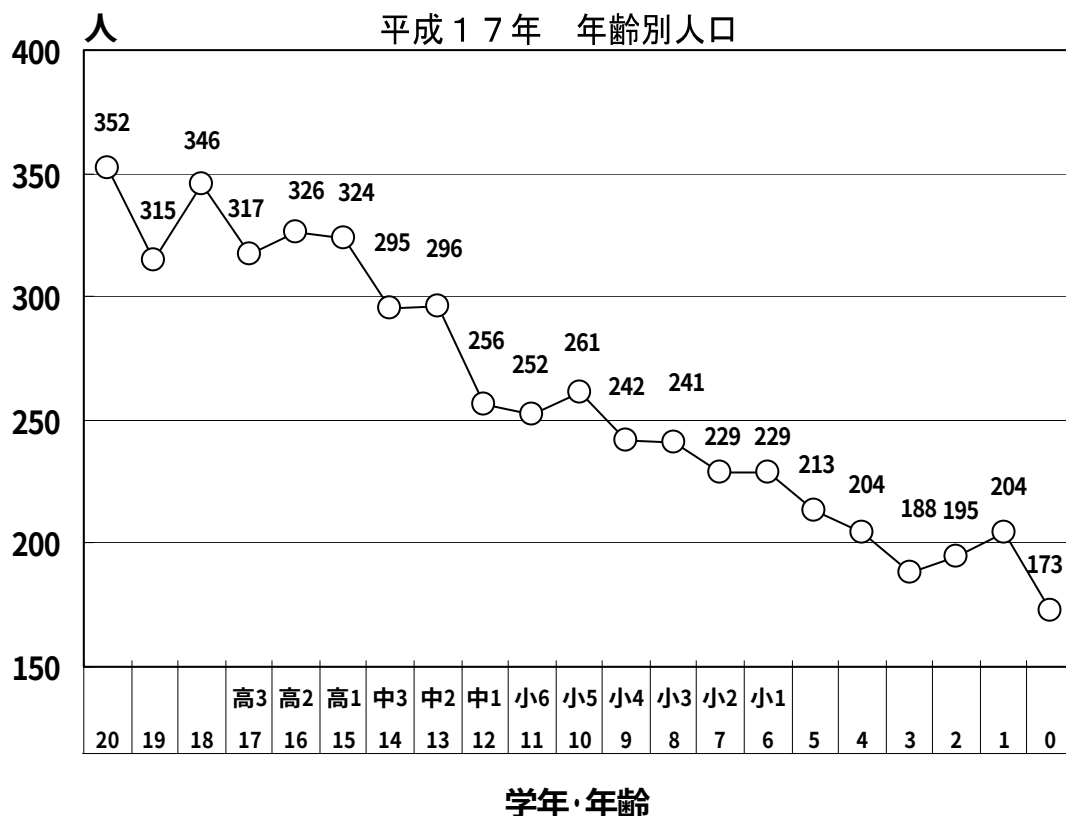
また、学校は、地域との関係が深いので、地域の方々に児童数の実態と推移を知っていただくと共に、地域に若い人たちが住み続けて一定の児童数が確保できなければ、学校は存在できないという現実にも目を向けていただきたい。

そして、次代を担う子どもたちにとって“望ましい学校とは何か”を共に考え、統廃合から派生する諸問題についても十分検討し、統廃合問題の方向性を見つけ出したい。

各小学校の平成17年と平成23年の児童数の推移

校区	学 年	平成17年								平成23年 見込み								児童増 減率%
		1	2	3	4	5	6	計	級数	1	2	3	4	5	6	計	級数	
南部 中校 区	平泉寺	8	9	8	12	16	13	66	6	1 複式	5	5 複式	7	8 複式	7	33	3	-50.0
	成器南	82	79	81	84	79	59	464	14	57	62	66	72	70	71	398	12	-14.2
	三 室	6	8	複式		12	14	53	5	7	5 複式	6	6 複式	5	7	36	4	-32.1
中部 中校 区	成器西	37	36	43	34	54	56	260	9	26	43	32	28	33	29	191	7	-26.5
	村 岡	38	35	41	41	46	45	246	10	35	27	33	30	38	40	203	7	-17.5
	野 向	4	8	複式		複式		25	4	5	9 複式	1	7 複式	7	7	36	4	+44.0
北部 中校 区	荒 土	17	21	17	27	14	19	115	6	8	14	21	8	16	15	82	6	-28.7
	野分校	0	複式					7	1	2 複式	1	1				4	2	-42.9
	鹿 谷	21	18	17	18	18	19	111	6	21	22	16	16	17	17	109	6	-1.8
	北 郷	17	11	15	16	18	23	100	6	11	16	14	14	10	20	85	6	-15.0
合 計		230	228	237	241	260	251	1,447	67	173	204	195	188	204	213	1,177	57	-18.7

※ は複式学級を示しています。複式学級は隣接する2つの学年を合わせて16人以下の場合に編制されます。ただし、第1学年を含む場合には、第2学年との合計人数が8人以下の場合に編制されます。



検討委員会の要点報告

平成17年度の第1回から第4回までの委員会の要点について、次のとおり報告する。

第1回会議(平成17年6月29日)

事務局より報告と説明

- 1 市民対話集会について報告
- 2 各地区の児童生徒数の実態と推移を説明
- 3 望ましい学級・学校の規模について説明
 - ・ 中学校では、学年4クラスの12学級あれば、全教科の教員がそろう。
9クラスでは、1教科が免外、6クラスでは、2教科が免外となる。
(免外とは、専門外の教科を1年間に限り、臨時に免許状を与えて教えることをいう。)
また、教員数や生徒が少なくなると、部活動が成り立たないようになってくる。このことから、12クラス370人だと、すべての教科の教員がそろうので、中学校では、これが適正規模であると考えられる。
 - ・ 小学校は、将来的に福井県は、1クラス35人学級になる。36人から2クラスなので、このことから考えると1クラス18人となる。
コミュニケーションをする時には、1グループ5～6人は必要となり、賛成・反対・中立の3グループで18～20人となる。少人数では、切磋琢磨が不足する。2グループでは、なかなか話し合いが進まない。また、1学級では、クラス替えができない等変化がありません。できれば1学年2学級が望ましいと考えている。
 - ・ 複式は、1学年ずつ学習する。自学の力がつくが、子どもから多彩な意見が出にくくなる。分校は、少人数で目が届くが、本校に行くと十分面倒見てもらえないので、一時期悩むケースも見られる。

委員からの意見

- ・ 私の5年生の子どもは2クラス、4年生と2年生は1クラスにそれぞれ学んでいる。5年生は、クラスで対抗心があり切磋琢磨している。2クラスが望ましいと考えている。
- ・ 教育観が変化している。複雑多岐な時代に対応できる学力が求められている。少人数の教育では、コミュニケーションや思考力に問題がある。あまりにも人数が少ないと学力差が生ずる。
- ・ 多様化した時代に対応した教育に賛成する。当市の人口規模だけから言えば、勝山は「町」である。勝山が生き残ることを考えなければならない。
- ・ 考え方は、市町村合併と同じである。子どものこと、全体のことを考えるという方向に賛成する。
- ・ 孫が小学校に通っているが、すぐに適正規模ができるかどうか疑問に思える。適正規

模を思っても、私の地域の住民は、自ら廃止は言い出せないと思う。若い人が、地域に生き残る方法を考えなければならない。

- ・ 統廃合は財政面でメリットがある。教育環境の整備にける金が増えるのであれば、統廃合に賛成する。
- ・ 小・中学校とも、いろいろな組み合わせパターンを作り、それぞれのメリット、デメリットを示したら良いと思う。

第2回会議(平成17年9月27日)

- 1 各地区別対話集会について報告
- 2 小中学校の望ましい統廃合の在り方について検討
- 3 アンケート調査の内容などについて検討
- 4 統廃合のモデルパターンについて意見交換

委員からの意見

(各地区対話集会について)

- ・ 地区対話集会に参加したが、危機意識があまり感じられず、参加者は少なかった。また、子どもを持つ親の参加が少なかった。
- ・ 集会案内は全戸配布されていた様だが、PTAに対して連絡があまり伝わっていなかったのではないと思う。PTA会長名で出した方がより参加者が多くなるのではないと思う。
- ・ 集会の中で地区別児童・生徒数を見て驚いている方が多かったのは印象的であった。
- ・ 若い世代の方を集会や会議に出席できるように工夫して欲しい。世代を限定した説明会を開いても良いのではないか。
- ・ 全ての地区で対話集会を開いているし、地区に対する説明義務を果たしている。限定してPTAの場に飛び込んでいくのも良いのではないか。
- ・ PTAに説明を行うのは良いと思う。ただ、今の保護者の中には、統廃合は子どもの卒業後のことだから私達には関係がないと考える方もいるのではないかと心配です。
- ・ 世代によって統廃合に対する考え方が違うのではないと思う。地区の対話集会では、地区での立場、親としての立場といろいろあって意見を出しにくいのではないか。
- ・ 年齢により意見が違うので、年齢層を分けて集会をすると良いと思う。また、統廃合の流れについて、美山町の経緯を説明したのは、分かりやすく良かった。

(小中学校の望ましい統廃合の在り方について)

- ・ 今の中学校の校区のように南部・中部・北部地区に分けて小学校を3校、中学校は1校で良いのではないと思う。
- ・ 以前中学校を2校にして、小学校を3校、内2校を小中併設校という考えを述べられた方がいましたが、私もその考えは非常に良いと思う。個人的意見として、低学年までは、歩いて通学できる分校を多く配置するのも良いのではないと思う。

- ・ 小中併設との考えを言われた方は、勝山北部中学校の規模について教諭の確保が厳しい状況と考えた上での小中併設という意見だったと記憶している。
- ・ 小中併設校についてだが、施設等の問題をクリアしなければならないが、6年生の段階から教科担任制を導入して行く形もある。
- ・ 市P連は、市P連全体のテーマとしてこの問題を考えていこうと考えを温めている最中である。
- ・ 学校を残したばかりに、地区から子どもがいなくなるというのでは、学校を残した意味がなくなってしまうので、それだけは避けたいと思う。
- ・ 統廃合モデルパターンについては、この会議を開いた意味を持たせるためにも、検討委員会で作らなければならないと感じている。

(アンケート調査の内容などについて)

- ・ 年代別にアンケートをとる必要があると感じている。
- ・ メリット・デメリット等、児童・生徒に対する教育的効果を出しながら、そこにかかるコストなど財政的面をアピールする必要があるのではないかと思う。
- ・ 調査対象者に、メリット・デメリットを説明した上で、アンケートを実施すべきでないだろうか。
- ・ 複式学校に子どもが通学している保護者は、子どもが伸びるなら、複式解消もやむを得ないという考えが多勢でないかと思う。
- ・ 統廃合に対する意見について、当事者である保護者と地区とではかなり乖離していると感じている。PTAに対して説明会なりをしていくべきではないか。
- ・ PTA連合会でも、説明して欲しいとの声は上がると思うので検討して欲しい。
- ・ 青年代表としてこの会議に出席したが、私はまだ統廃合について想像できていないのが現状です。これからいろいろな機会に友達に話していくなど、若い人の意見を聞きたい。

(統廃合のモデルパターンについて)

次のような意見が出たがさらに検討することとなる。

- ・ 3校方式（南部中・中部中・北部中の校区による校区分け）
- ・ 複式学校解消型方式
- ・ 6校4分校方式（平泉寺小・三室小・野向小を分校化する。細野分校は維持）
- ・ 3校方式にして、低学年の間だけ現存小学校を分校にする方式。
- ・ 現状維持

第3回会議(平成18年2月7日)

事務局より報告と説明

1 特別認定校視察報告

17年11月15日に小松市立西尾小学校を視察したので報告する

※ 特別認定校制度

自然環境に恵まれた立地条件と、小規模校の優れた面を生かすことができる学校を認定し、就学を希望する児童生徒が通学区域にとらわれずに就学できる制度

2 市PTA連合会と市教委の対話集会について報告

17年11月22日に市P連主催により、教育会館において、「小中学校の望ましい在り方について」対話集会を実施したので、その内容を報告する

3 小中学校の保護者に対する説明会の実施報告

17年12月19日から21日にかけて、全小中学校の2学期保護者会に事務局職員が出向き、小中学校の望ましい在り方検討委員会の検討内容、検討委員会の平成16年度中間報告、各小学校の児童数の推移、各小学校校区・地区の年齢別児童数の推移、意向調査のための統廃合モデルパターン、学校規模によるメリット・デメリットを資料にして説明する。全保護者に資料配布。

4 幼稚園・保育園の保護者代表と市教委の対話集会報告

18年1月30日に教育会館において「小中学校の望ましい在り方について」対話集会を実施したので、その内容を報告する。

アンケート調査について検討

事務局より

保護者がどのような意見を持っているか、意向調査として実施したい。このアンケートをどのように取り扱うかを含めて検討をお願いしたい。

委員からの意見

- ・ アンケートを実施すべきだが、結果が今後どのような意味を持つのか、事前に教示して欲しい。
- ・ アンケート結果を公表するのではなく、この委員会の内部資料にすべきではないか。ただ、公表を求められるのは必至だろう。
- ・ アンケートの結果によっては、今後の検討委員会の存在意義が問われるかもしれない。
- ・ 統合する新校を示さないと、アンケートに答えるにあたり判断しづらいのでないだろうか。
- ・ 保護者や地区によって統廃合に関する温度差がある中で、アンケートをする意味があるのか。教育的見地からどの規模が望ましいのか十分に説明する必要があるのではないかと考える。

検討の結果、今回のアンケートは、小中学校保護者のみを対象に実施する。結果は参考資料として使用し、今後の統廃合の方向性を示すものではないこととする。またアンケートをとるための統廃合パターンは次のとおりとし調査表の最終構成は事務局に一任することにした。

1 案 統廃合せず、現行の学校を維持

2 案 複式学級解消のための統廃合

3 案 1 学年複数学級がある学校への統廃合

第4回会議(平成18年3月16日)

事務局より報告と説明

- 1 小中学校保護者アンケート調査結果を報告
- 2 中間報告のまとめについて検討

委員からの意見

- ・ 統廃合をしないと言う意見が多数になると思っていたが、結果は人数の減少によって、統廃合はやむを得ないという意見が多数であった。
- ・ 統廃合が進み、学校が遠くなればスクールバスで通学することになると思うが、アンケートに「統廃合になればスクールバスを出す」という具体的な表現があれば、統廃合を進めるという意見がもっと出たのではないかと思う。
- ・ アンケートを参考にして、平成18年度の検討委員会の方向性を示さなければならぬ。
- ・ 今年度は、中学校の統廃合についての意見が出なかったが、中学校の方が早く結論が出るのではないか。小学校については、交通手段の具体的解決策や統廃合による新しい学校の場所についても示した方が良かったのではないかと思う。
- ・ アンケートによって、統廃合問題に対する意識が出てきたのは良かった。
- ・ アンケートの記載欄を大切にしたい。又それについても報告にまとめて欲しい。
- ・ 私の周りでは、学校を残して欲しいという意見と統廃合で教育環境を整えて欲しいという意見もある。個人では意見を出すのが難しいので、統廃合を進める具体的な「線引き」を示して欲しいがどうか。
- ・ 子どもの教育環境を最も優先して考えるべきではないか。また同時に財政面についても、示していくべきではないかと思う。
- ・ 勝山市全体を考える18年度案にしなければならない。アンケート結果を踏まえた上での17年度中間報告にしなければならない。

「小・中学校の望ましいあり方検討委員会」の中間報告

- 1 総合的な学習の時間や学校行事等で地域人材を積極的に活用し、地域と学校の間係をより深め、地域に開かれた特色ある学校づくりを進める。
- 2 地域の存続と学校の存続とは関係が深いので、地域の方々は、地域に子どもが残るような手立てを考えていく必要がある。
少子化の中で、学校を考えることは地域を考えることに繋がる。
- 3 昨年度の中間報告を受け、校区内の子どもの数が大きく減少している現実を説明し、広く意見を聞くために、各地区、市PTA連合会、小・中学校の保護者、幼稚園・保育園の保護者との対話集会を開き、各対話集会で出されたことについて検討した。
- 4 県外の特認校制度の視察調査や他の地区の学校統廃合の事例調査を行い、勝山市の統廃合を考えるための参考にした。
- 5 小学校の統廃合のモデル3案を作り、それぞれの学校規模によるメリット、デメリットについて比較検討した。統廃合のモデル3案を基に、市内全小・中学校の保護者を対象に、「小・中学校の統廃合に関するアンケート」を実施し、基礎資料として検討を行った。
- 6 勝山市民に、「小・中学校の望ましい在り方」について理解を得るために、積極的に集会やホームページで情報を公開し、集会を行い広く意見を聞いていく。
- 7 就学前の保護者や地域の住民が、モデル2案についてどのような考えをもっているのかを把握し、それぞれの案の課題を明確にして、統廃合に向けた方策を検討していく必要がある。
- 8 平成17年度までの小学校統廃合の検討を踏まえて、平成18年度には、中学校の統廃合についても検討する。
- 9 検討委員会で2年間にわたる議論の結果、全校児童・生徒数が一定の数を切ったとき、小学校の統廃合を行うことで、意見の一致をみた。ただし、統廃合を実施する場合は、地域の同意が必要である。
- 10 統廃合を行うことで発生する諸問題について十分検討し、平成18年度末には、検討委員会としての方針を決定する。

平成17年度 勝山市の小中学校の望ましい在り方検討委員会委員

◎委員長 多田 誠治 ○副委員長 竹原 幸雄

(順不同・敬称略)

	区 分	職 名 等	氏 名
1	市区長連合会	村岡町区長会長	笠川 剛士
2		荒土町区長会長	堀内 博
3	学識経験者	市商工会議所会頭	荒井 由泰
4		小児科医	河北 美紀子
5		児童文学作家	平泉 和美(大庭 桂)
6	市小中学校校長会	市中学校校長会会長	南部 勇
7		市小学校校長会会長	竹原 幸雄
8	市壮年連絡協議会	遅羽町壮年会会長	坂東 昭治
9	市公民館運営審議会	勝山公民館運営審議委員	山本 英樹
10	市PTA連合会	鹿谷小学校 PTA 会長	伊藤 史朗
11		勝山南部中学校 PTA 会長	山内 澄
12	市幼稚園父母の会連合会	北幼稚園父母の会副会長	澤 充
13	市保育園父母の会連合会	しろき保育園父母の会会長	山内 公夫
14	市内在住青年	大学生	山崎 祥子
15	市教育委員会	教育委員会委員長職務代理者	多田 誠治

オブザーバー	教育長	山 範男	市教育委員会
--------	-----	------	--------

事務局	教育部長	山本 一郎	市教育委員会教育総務課
	学校教育専門監	酒井 邦春	〃
	指導主事	竹内 和徳	〃
	充指導主事	藤井 範子	〃
	主 任	山内 正人	〃
	主 事	牧野 聡暢	〃